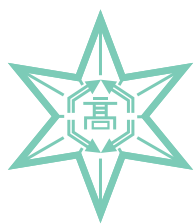


150
Anniversary



石川県立翠星高等学校

創立150周年記念誌 1876-2026



石川県立翠星高等学校

創立150周年記念誌



石川県立翠星高等学校

校歌

川口久雄 作詞
高田信一 作曲

一 青雲の 空澄みとほり

さやかなる 雪の白山

けがれなき 思索に生きて

いさぎよく 我等こぞれり

土よ照れ 母なる大地

高らかに 若さ讃へむ

二 眼のかぎり しぶきあげつつ

日本海 波こそ騒げ

揺がざる 学びにつとめ

眉あげて 我等こぞれり

潮とわけ 真理の泉

新しき 光讃へむ

三 加賀野行く 水は浄らに

花霞む 千代尼のあとよ

時知らぬ 松の翠を

いただきて 我等こぞれり

星と澄め 心の奥処

一筋の 気魄讃へむ



翠星高校の 四季



校舎
School



学校生活

School Life





生物資源コース





食品科学コース



環境科学コース

環境設計分野

造園分野





部活動

Club Activities



創立150周年記念誌

CONTENTS

校歌	
翠星高校の四季	
学校生活	
ご挨拶 六星同窓会 会長 本 昌康	15
翠星高等学校 学校長 宮下 正司	16

本校の沿革	18
-------	----

第1章 150年の歴史

1 明治期開校から石川県立農学校の松任移転まで	24
2 大正期の県立農学校	26
3 石川県立松任農学校時代	27
4 松任女子実業学校	29
5 石川県立松任高等女学校	29
6 総合制石川県立松任高等学校	32
7 石川県立松任農業高等学校	35
8 石川県立松任農業高等学校 新しい百年への出発を	38
9 石川県立翠星高等学校	40

第2章 教育活動の変遷

松農から翠星へ	44
総務課	48
教務課	50
生徒指導課	59
特活指導課	61
進路指導課	62
保健課	65
教育相談課	66
学科・農場	67
生物資源コース	69
食品科学コース	70
環境科学コース環境設計分野	71
環境科学コース造園分野	72

第3章 生徒の活動

2000 (平成12年度)	74
2001 (平成13年度)	76
2002 (平成14年度)	78
2003 (平成15年度)	80

2004 (平成16年度)	82
2005 (平成17年度)	84
2006 (平成18年度)	86
2007 (平成19年度)	88
2008 (平成20年度)	90
2009 (平成21年度)	92
2010 (平成22年度)	94
2011 (平成23年度)	96
2012 (平成24年度)	98
2013 (平成25年度)	100
2014 (平成26年度)	102
2015 (平成27年度)	104
2016 (平成28年度)	106
2017 (平成29年度)	108
2018 (平成30年度)	110
2019 (令和元年度)	112
2020 (令和2年度)	114
2021 (令和3年度)	116
2022 (令和4年度)	118
第73回日本学校農業クラブ全国大会 令和4年度北陸大会特集	120
2023 (令和5年度)	124
2024 (令和6年度)	126
2025 (令和7年度)	128

第4章 地域と共に歩む翠星高校

・継続は力なり 廃棄果皮ゼロ宣言！	132
丸ごと生かそう「金沢ゆず」	
・全国六次産業化計画！	136
各地域に合わせた「廃棄果皮Oシステム」	
・「HACCP導入」応援団！	140
農業高校生が食品の安全安心を考える	
・石川の未来を創るイチゴ	144
イチゴ高設栽培モデルの確立と校内6次産業化への挑戦	
・和菓子でつなぐ世代の絆	148
白山市から全国へ届ける敬老の日の贈り物	
・あつまれ！100年の森	152
高校生が実践する学校庭園再生と環境教育・ 防災教育・生涯学習の拠点づくり	
・地域社会や産業界で活躍できる人材育成を目指して 石川県内唯一の農業高校の挑戦	
校長 宮下 正司	156

ご挨拶



創立150周年記念誌発刊にあたって

六星同窓会 会長 本 昌康

本年、母校石川県立翠星高等学校は、創立150周年という輝かしい節目を迎えました。この記念すべき年に、長きにわたる母校の歩みを振り返り、その歴史と伝統を未来へつなぐ記念誌を発刊できますことを六星同窓会会長として大変うれしく、また誇りに思います。発刊にあたり、多大なるご尽力とご支援を賜りました教職員の皆様、同窓会員の皆様、そして関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

翠星高校が創立150周年を迎えたことの意味を、私は今、あらためて深く感じています。本校が県内で最も長い歴史を持つ高校であり、農業高校としても全国で最も長い歴史を誇る学校であることを、私自身、在校生のころから幾度となく聞いてまいりました。しかし、10代のころには、その重みを十分に理解することなく聞いていたように思います。卒業して50数年を経た今、「150年」という歳月を前にすると、その歴史の長さや今日まで母校を守り育ててこられた方々のご努力の大きさに、あらためて思いを致さずにはられません。

明治9年、本校が創設された当時、日本では多くの人々が農業に携わり、農業を学ぶことは、まさに社会そのものを学ぶことでもありました。その後、幾多の改称や変遷を経ながらも、本校は一貫して実践を重んじる教育を受け継ぎ、地域社会、そして日本の発展を支える多くの有為な人材を世に送り出してきました。今日までの150年を築いてこられた歴代の校長先生、教職員の皆様、地域の皆様、そして先輩諸氏の並々ならぬご尽力に、深い敬意と感謝を申し上げます。

これまで本校を巣立った卒業生は二万余名に及び、それぞれが農業のみならず、産業、行政、教育、文化をはじめ、さまざまな分野で活躍し、地域社会を支えてこられました。その一人ひとりの歩みの積み重ねこそが、翠星高校150年の歴史そのものであると思います。

時代は大きく変わりました。明治の時代とは異なり、農業に直接携わる人の割合は大きく減少し、今やAIをはじめとする新しい技術が、社会や仕事のあり方を急速に変えつつあります。しかし私は、AIの時代が進めば進むほど、本校で「食・農・環境」を学ぶ意義は、むしろ大きくなっていくのではないかと考えています。

土に触れ、自ら作物を育て、食と命の尊さを知り、仲間とともに汗を流す。自然は決して人間の思い通りにはなりません。だからこそ、そこから忍耐することを学び、考え、工夫することを学び、そして人と力を合わせることの大切さを学ぶことができます。こうした実体験を通して身につく力は、どれほど科学技術が進歩しても変わることはない、人間として生きていくための大切な力です。翠星高校で学んだ経験は、卒業後、どのような道に進もうとも、生涯にわたり自らを支える揺るぎない土台となるものと確信しております。

150年という歴史は、単に過去を振り返るためだけのものではありません。先人から受け継いだ志と伝統を、次の50年、100年へとつないでいくための、新たな出発点でもあります。この記念誌が、母校の長い歴史と伝統をあらためて心に刻むとともに、世代を超えた同窓生の絆をさらに深め、未来を担う在校生や後輩たちにとって、大きな励ましとなることを願ってやみません。

結びに、創立150周年記念事業ならびに本記念誌の発刊にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りましたすべての皆様に、重ねて深く感謝申し上げます。母校石川県立翠星高等学校のさらなる発展と、六星同窓会会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。



ご挨拶

翠星高等学校 学校長 宮 下 正 司

今年、令和8年、本校は日本で最も歴史と伝統ある農業高校として、創立百五十周年を迎えることができました。この記念すべき節目にあたり、「石川県立翠星高等学校 百五十周年記念誌」を発刊できますことは、この上ない喜びであります。

本校は明治9年12月、石川県勸業所に農学科が設置され、農業実習の技術指導者を養成する機関としたことにその創始を見ます。明治初期において、農業は国の礎として位置づけられ、農業教育機関への期待も極めて大きいものでありました。本校はその期待に応え、本県農業の近代化にも大きく貢献してまいりました。その後、校名は幾多の変遷を辿りました。明治10年には石川県農業講習所、明治19年には石川県農学校、明治34年には県立農学校、大正15年には県立松任農学校と改称されました。さらに戦後、昭和23年の学制改革により、農業課程と普通課程を併設する県立松任高等学校へと改編され、昭和28年には県立松任農業高等学校となりました。そして平成12年には、農業高校として全国で初めて単位制を導入するなど、新しい時代にふさわしい農業専門高校を目指し、「石川県立翠星高等学校」へと校名を改めました。県内の特定の地名を冠しない校名のもと、全県から「食・農・環境」に強い興味・関心を持つ生徒を迎え、知識と技術、そして実践力を備えた人材を育成することを、本校の使命として今日に至っております。

この十年を振り返りますと、平成30年にはグローバルGAPの認証を取得し、またコロナ禍にあった令和元年には、国内の教育機関として初めて食品安全規格（JFS-B）を取得いたしました。県内唯一の農業高校として、全国に先駆けた挑戦を続け、着実に歩みを重ねてきた十年でありました。また、令和4年10月には第73回日本学校農業クラブ全国大会が本県を中心とした北陸3県で開催され、本校は大会事務局として大会成功に大きく貢献いたしました。さらに、この農業クラブ活動においては、令和7年10月に開催された全国大会において、プロジェクト発表会の全部門に本校の3チームが北信越代表として堂々と発表するなど、目覚ましい躍進を続けております。

現在、社会は急激な変化の時代を迎えています。その中で、AI（人工知能）は、まさに変革の鍵を握る技術として大きな注目を集めています。今後、本校の生徒をはじめとする若い世代は、生成AIを活用しながら、より便利で豊かな社会を生きていくことになるでしょう。生徒たちがAIを活用する能力を身につけるとともに、新たな価値を創造できる人材として成長できるよう、教育環境の整備を一層推進してまいります。また、次世代の農業や地域社会の発展に貢献できるよう、多様な学習機会を的確に捉え、主体的かつ積極的な学びを支援していくことが重要であると考えております。今後十年、さらには五十年先を見据え、新しい技術に主体的に関わる姿勢と、それらを活用する確かな力を身につけられるよう努めてまいります。

本校はこれからも、地域に根差した農業高校として着実に歩みを進めてまいります。農業をはじめとする地域産業の担い手として、また地域の発展を牽引するリーダーとして活躍できる人材の育成に、今後も一層努めてまいります。そして、日本で最も歴史と伝統のある農業高校として、その誇りと使命を胸に、さらなる未来へ向かって力強く飛躍していくものと確信しております。

結びに、本校の発展と充実のために多大なるご支援を賜りました教育関係各位、PTA、六星同窓会をはじめ、各方面の多くの皆様に深甚なる謝意を表しますとともに、本校のますますの発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

本校の沿革

明治9年

- 4月 石川県金沢区方勸業場において農業篤志家を集めて農書を講義する。
- 12月 石川県勸業所と改称し、農学科を設け農業実習の技術指導者を養成する機関とする。これをもって本校の創始とする。
- 石川県勸業所総括 吉崎宇一 就任

明治10年

- 1月 農学科を分立し石川県農業講習所を設立、下等科（1年制）、上等科（2年制）を置く。
- 石川県農業講習所総括 吉崎宇一 就任

明治11年

- 9月 明治天皇御巡幸の際、果実・野菜を天覧に供す。

明治12年

- 9月 下等科を廃止し、修業年限を2年（正則）と定める。

明治13年

- 7月 石川県農業講習所初代所長 渡辺譲三郎 就任

明治14年

- 10月 正則修業年限を3年とする。

明治15年

- 8月 正則修業年限3年を、本科2年 専修科1年とし、変則修業年限を2年とする。

明治19年

- 4月 本所を羽咋郡東土田村字火打谷串田野に移転し、石川県農学校と改称する。
- 6月 石川県農学校取締 吉崎宇一 就任
- 7月 校舍及び教職員生徒両宿舍落成

明治21年

- 4月 規則改正し、修業年限3年の中等学校となる。別に就業年限1年の撰科を置く。

明治22年

- 3月 石川県農学校初代校長 吉崎宇一 就任

明治23年

- 8月 修業年限2年の獣医科別科を置く。

明治29年

- 3月 獣医科別科を獣医学科（定員50名）とし、修業年限を農業科（定員100名）と同じく3年とする。また撰科は1年とする。
- 4月 能美郡小松町字小馬出町に移転し、公会堂を校舎とする。農業科・獣医学科を置く。

明治30年

- 11月 撰科を廃止し短期の農事講習科を設け、各郡に臨時教場を置き、出張授業を行う。

明治33年

- 3月 農学科（定員150名）獣医科（定員50名）を両学科を通して（定員200名）とする。

明治34年

- 5月 県立農学校と改称する。
- 県立農学校初代校長 高田鑑三 就任

明治35年

- 3月 石川郡松任町馬場町に新校舎が落成し移転する。

明治36年

- 4月 卒業式と併せて校舎落成式典举行

明治37年

- 3月 農業講習科を廃止し、農科、獣医科を置き修業年限3年とし、両科通して定員300名とする。
- 本校に修業年限2年の補修科を置く。

明治42年

- 5月 清国教育視察団来校
- 9月 東宮殿下本校行啓

大正7年

- 4月 本校付設県立農業教員養成所開所式举行

大正8年

- 4月 本校付設県立農業補習学校開所式举行

大正9年

- 8月 別科講習所創設

大正10年

- 4月 県立農業教員養成所を県立実業補習学校教員養成所と改称

大正11年

- 3月 県立農業補習学校を廃止

大正12年

- 3月 松任女子実業学校初代校長 加藤政吉 就任
- 4月 農科第1部（尋常5年制）、農科第2部（高卒3年制）林科（尋常3年制）を置く。
- 松任市古城町で松任女子実業学校（修業年限前期2年、後期2年、定員200名）開校式举行

大正13年

- 4月 松任女子実業学校に修業年限4年の農業科、商業科を置く。

大正15年

- 4月 県立松任農学校と改称する。修業年限5年の林科を廃止し3年制（高卒）を置く。
- 松任農学校初代校長 竹内秀雄 就任

昭和2年

- 4月 松任女子実業学校を県に移管し、県立松任高等女学校とする。修業年限4年、各学年2学級（定員400名）開校式举行
- 松任高等女学校初代校長 畑山治作 就任

昭和8年

- 4月 林科を農林科と改称する。県立実業補習学校教員養成所の修業年限を3年とする。

昭和9年

- 4月 鹿島郡徳田村に専修科（1年制）を置く。「昭和15年 七尾農学校として独立」

昭和10年

- 4月 県立実業補習学校教員養成所を県立青年学校教員養成所と改称
- 9月 創立60周年記念式典举行

昭和11年

- 4月 県立松任高等女学校創立10周年記念式典举行

昭和13年

- 4月 師範学校卒業者を1年修業する県立臨時教員養成所を併置

昭和15年

- 4月 修業年限3年（高卒）の獣医畜産科を置き、専修科を廃止する。

昭和18年

- 4月 修業年限3年（高卒）の拓殖科を置く。

昭和19年

- 4月 県立青年学校教員養成所は青年師範学校となり河北郡津幡町に移転。

昭和20年

- 4月 修業年限2年の女子農業科を設置
- 9月 創立70周年記念式典举行

昭和21年

- 4月 拓殖科を廃止し、在学生を農業科に編入させる。獣医畜産科を畜産科に改称する。

昭和22年

- 4月 学制改革により、併設中学2・3年、高女4・5年制の編成となる。高女創立20周年記念式典举行

昭和23年

- 4月 学制改革により、県立松任高等学校（3年制）が設立され、県立松任農学校校舎を農業課程、松任高等女学校校舎を普通課程とし、同時に併設中学（3年制）を置く。
- 8月 松任高等学校初代校長 難波得三 就任
- 9月 定時制を設け、本校に農業課程、普通課程、石川郡美川町に水産課程を置く。

昭和24年

- 4月 学区制実施により、男女共学の総合制高校となり、普通・農業・商業・家庭の4課程を置く。高女第19回卒業式举行 これをもって高女自然廃校となる。

- 定時制水産科を廃止し、普通課程として美川中学で授業を行う。分校を廃止し第1学年を本校に移籍する。

昭和25年

- 3月 畜産科を廃止する。県立松任高等学校同窓会設立

昭和27年

- 6月 文部省産業教育指定校となり、農業に関する課程に農業・農林工学・農芸化学の3課程を設置。

昭和28年

- 4月 県立松任高等学校の生徒募集を停止し、県立松任農業高等学校が設立される。農業に関する課程に農業・農林工学・農芸化学・農業経済の4学科と家庭課程を置く。
- 6月 松任農業高等学校初代校長 飯倉 薫 就任
- 7月 1日に開校記念式典举行 この日を創立記念日と定める。
- 8月 県立松任農学校同窓会・県立松任高等女学校清輝同窓会・県立松任高等学校同窓会の3者を統合して六星同窓会を結成

昭和29年

- 4月 県立小松実業高等学校農業課程廃止となり、その在校生（80名）を本校に移籍する。
- 農業専攻科（農業高校卒2年制）を置く。

昭和30年

- 11月 創立80周年記念式典举行
- 12月 寄宿舍北星寮移転改築完了

昭和31年

- 4月 文部省産業教育指定校となる。

昭和32年

- 4月 農林工学・農芸化学の2学科の募集を停止し、農林・農業土木・農産加工の3学科を置く。
- 募集定員農業科（80名）農林・農業土木・農産加工・農業経済（各科40名）、更に家庭科（135名）となる。

昭和34年

- 4月 農業専攻科の修業年限を1年に改める。

昭和35年

- 1月 校舎改築第1期工事着手
- 12月 新館普通教室1棟落成

昭和36年

- 4月 家庭科の募集定員90名となる。

昭和37年

- 1月 石川郡松任町字三浦町で新校舎の起工式举行

昭和38年

- 4月 農業経済・農産加工の2学科の募集を停止し、畜産・農産製造の2学科を置く。家庭科2・3年生を新設の県立松任高等学校へ移籍する。
- 募集定員は、農業・畜産・農林・農産製造・農業土木（各科50名）、定時制農業科（50名）となる。

昭和39年

- 5月 松任町字三浦町に新校舎が落成し移転する。

昭和40年

- 5月 第1期造園工事（中庭芝生）完了

昭和41年

- 4月 農林科の募集を停止し、造園科を置き各科の募集定員は45名定時制40名となる。
- 9月 水理実験室完成
- 10月 創立90周年記念式典挙行 記念館落成

昭和42年

- 4月 定時制課程の募集を停止する。全日制各科定員40名となる。農業専攻科を2年制とする。

昭和43年

- 3月 定時制農業科廃止 大農具室完成

昭和44年

- 3月 漬け物加工実習室、造園実習室完成 松任町木津地区に農場設置

昭和46年

- 4月 県農業短期大学設立に伴い農業専攻科の募集を停止する。記念会館を県に移管し図書館とする。

昭和48年

- 4月 農産製造科の募集を停止し、食品製造科を置く。7月プール竣工式挙行
- 10月 第24回日本学校農業クラブ全国大会開催、本校事務局

昭和50年

- 10月 開校100年記念式典挙行 記念庭園完成 畜霊碑竣工

昭和53年

- 3月 畜舎の汚水処理施設完成

昭和54年

- 3月 県道松任・鶴来線沿いの農地を運動場東側等に交換移転する。
- 11月 全自動化鶏舎完成

昭和56年

- 5月 造園施工実習棟・造園材料実習棟完成
- 12月 ぶどうガラス室完成

昭和57年

- 4月 推薦入学制実施

昭和58年

- 4月 農業科・畜産科の募集を停止し、農業畜産科・園芸科（各科40名）を置く。
- 6月 第2体育館完成

昭和60年

- 4月 食品製造科2学級募集、5学科6学級定員240名となる。
- 10月 園芸実験実習棟完成
- 11月 開校110年記念式典挙行

昭和63年

- 3月 食品製造実習棟完成

平成2年

- 9月 運動場拡張整備完成

平成4年

- 3月 農業土木実習棟完成

平成5年

- 4月 農業畜産・園芸の2学科の募集を停止し、生物生産・園芸科学の2学科（各科40名）を置く。

平成6年

- 4月 造園・農業土木・食品製造の3学科の募集を停止し、緑地デザイン・環境工学・食品科学の3学科（各科40名）を置く。

平成8年

- 4月 食品科学科1学級募集停止し、5学科5学級定員200名となる。

- 10月 創立120周年記念式典挙行

平成9年

- 3月 園芸実験実習棟・環境工学棟防音工事完了

平成10年

- 12月 本館防音工事及び大規模改修工事完了

平成11年

- 11月 2号館防音工事及び大規模改修工事完了 スクールカラーを「翠緑」と制定

平成12年

- 4月 校名を県立翠星高等学校と改称 生物生産・園芸科学・食品科学・環境工学・緑地デザインの5学科の募集を停止し、総合グリーン科学科（定員200名）を置き、単位制・2学期制となる。
- 翠星高等学校初代校長 大藏捷直 就任

平成13年

- 3月 鉢物温室・切花温室改築工事完了

平成14年

- 2月 造園施工実習棟更衣室改修工事完了

平成17年

- 3月 3号館 福祉実習棟（図書室）完成
- 4月 募集定員160名となる

平成18年

- 10月 創立130周年式典挙行

平成20年

- 3月 市道 末松徳光線用地として果樹園用地等を白山市に売却

平成21年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を、6系から5コースとする。

平成22年

- 3月 白山署用地として旧果樹園用地を警察本部に管理換
- 4月 市道 末松徳光線 本校西側に開通

平成27年

- 3月 旧図書館棟解体

平成28年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を5コースから3コース6分野とする。
- 8月 太陽光発電設置
- 9月 創立140周年記念式典挙行

平成30年

- 1月 特別教室棟大規模改修工事完了

令和2年

- 11月 第2体育館改修工事完了

令和4年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を3コース6分野から3コース4分野とする。
- 10月 第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会開催、本校事務局

令和5年

- 11月 衛生環境整備工事（トイレ洋式化等）完了

令和6年

- 12月 管理教室棟大規模改修工事（電気設備・機械設備）完了

令和7年

- 1月 図書館棟空調整備工事（電気設備・機械設備）完了
- 3月 管理教室棟大規模改修工事（建設）完了

令和8年

- 9月 創立150周年記念庭園「100年の森」完成
- 10月 創立150周年記念式典挙行、創立150周年記念誌発刊

卒業生数（令和8年3月31日現在）

石川区方勸業場	}	…合計	533名
石川県勸業場			
石川県農業講習所			
石川県農学校	}	…合計	4,536名
石川県立農学校			
石川県立松任農学校			
石川郡松任女子実業学校		……………	102名
石川県立女子実業学校		……………	89名
石川県立松任高等女学校		……………	1,682名
石川県立松任高等学校（総合制）		……………	1,897名
石川県立松任農業高等学校		……………	9,972名
石川県立翠星高等学校		……………	3,563名
			総計22,374名